

地域と学校の 協働通信

令和6年11月6日
武蔵野市教育委員会
指導課教育推進室
第22号

特集

- 第2回地域コーディネーター連絡会報告
- モデル校（境南小・第一中）の報告
- 各学校の協議会から

「第2回 地域コーディネーター連絡会」は、小・中学校の先生方の「武蔵野市民科カリキュラム推進委員会」と合同開催しました



武蔵野市民科の取組や地域人財の情報などを共有しました。

8月21日に、第2回地域コーディネーター連絡会を実施しました。今回は、小・中学校全校から担当の先生が参加する「武蔵野市民科カリキュラム推進委員会」との合同開催としました。

「武蔵野市民科」では、地域の人・もの・ことに関わる体験的な活動を充実させることで子どもたちの学習意欲や資質・能力の高まりを期待することができます。しかし、学校の先生は異動も多く、着任した地域の人・もの・ことを探すのに苦労しています。

一方、「地域コーディネーター」の方も、学校の学習活動やその計画にどのように関わっていったらよいかという悩みを持つ方が少なくありません。その点で、地域のことをよく知る「地域コーディネーター」は先生方にとって頼りになる存在です。今回は、地域ごとの4つのグループに分けて、「地域コーディネーター」や武蔵野市民科それぞれの仕事や活動の様子や課題などを共有し、報告し合いました。コーディネーターからも先生方からも、「直接お話ができてよかった。これからも、連絡を取り合って子どもたちの活動を充実させていきたい」という声が多く上がり、会が終了してからもその場に残留してお話を続ける方が多く見られました。

学校運営協議会機能を有する開かれた学校づくり協議会（モデル校）の報告



第一中学校 第5回協議会

第6回は、11月29日（金）
15時～（予定）

「生徒と地域をつなげていくには」という前回から引き続きテーマで生徒にアンケートを取ることになり、具体的なアンケート項目の検討をしました。生徒の声から「ボランティア＝募金活動や清掃」といった認識のずれがあることもわかり、アンケート項目は、生徒の日常・現状を把握し、考えや興味を引き出せるものにしたいという意見が出ていました。

また、校舎が改築された際には、向かい合う中央コミュニティセンターと気軽に立ち寄れるような関係性が築けたら、との意見から、定期的なお手伝いや、居場所につながるようなボランティア活動へのアイデアがありました。週末には、青少協が中心となり地域の協力のもと準備された25コースの体験活動を行う「一中フェスタ」が開催されたばかりであり、その様子も共有されました。最後には、学校評価アンケートの項目の説明が副校長先生からあり、次回の宿題となりました。



委員が考えた生徒への質問項目を黒板に貼って共有しました



境南小学校 第5回協議会

第6回は、1月20日（月）
18時30分～（予定）

今回は、学校評価アンケートの項目の確認と、前回実施した6年生との交流の振り返りや次回の交流についての方向性について協議・交流しました。「児童が作成していたマンガラを次回も続けるといいのでは。」「6年生としての中学校に向けた期待や不安について、委員も経験してきたことなので、交流しては。」「（次回には無理でも）保護者会や学校公開にぶつけて、保護者にも見てもらえるような機会ができるとうい。保護者は子供が考えていることを意外と知らないのではないか。」など、活発な議論が続きました。



交流後の6年生の作文を見て、子どもたちはどう感じたのかも共有しました



各学校の「開かれた学校づくり協議会」から



前号に引き続き、各学校の協議会の様子をお伝えします。来年度に向けて、委員の人数や協議会の実施回数を増やすなど、様々な工夫をしています。参考になるところがあれば、取り入れてみてはいかがでしょうか。



大野田小学校

今回は、5校時の授業を参観した後、協議会を行いました。校長先生からは、11月22日の武蔵野市民科研究発表会を踏まえて、学習や学校生活で児童の主体性を大切にしていることや、「開かれた学校づくり協議会」の委員さんからの紹介でゲストティーチャーを招いて学習が活性化しているなどの話がありました。

その後、ミニ熟議として、来年度の学校運営協議会化を見据えて、「学校と連携してできそうな取組やアイデア」「こんな子供たちになってほしい」などについてグループで協議し発表しました。「近隣の大学や私立学校と連携できないか?」「地域に愛着をもつ子、外遊びが好きな子、広い視野で他人に関心をもち、異なる立場の人にも関心をもてる子になってほしい。」などの意見が共有されました。



井之頭小学校

第2回となる今回は、ここまでの教育活動について学校経営方針に基づく目標・方法・進捗情報を整理した資料や学力調査の結果分析等について充実した資料を基に、校長先生からの説明や担当教員からの報告がありました。

後半は、グループ協議と意見交換を行いました。同校が地域の幼児教育機関や学童保育等との連携を積極的に行ってきたことへの肯定的な意見や、「失敗が体験できる学校でありたい」や「『～ねばならない』から『でもいいんだ』になれるといいな」など、これからの学校づくりにつながっていきそうな多様な意見が委員からも教員からも出されました。



本宿小学校

第2回協議会です。校長先生から、学力調査の結果分析に基づき、本校の児童は「認知能力」が高い結果が出ているが、今後は「非認知能力」も高めていきたいとお話がありました。そのためにも、様々な体験活動を通して、どのように意欲、自制心や忍耐力、思いやり等を高めていくかという課題が提起されました。また、教務・生活指導・保健の各担当教員から、資料を基に児童の状況や学校の取組について報告がありました。

その後の意見交換は2グループで行いました。委員さんからは、児童の学力の高さを踏まえ、学校に求めるのは、「学校でしかできないこと」であるという意見があり、校長先生からも、「これまで、コロナ感染症等による教育活動の制限により、十分に経験させられなかったことについて、改めて学校だからこそできることがある。」と考えを共有する様子が見られました。



第三小学校

校長先生の冒頭のあいさつでは、2学期が始まり、学校は落ち着いていることや学校行事・地域行事についてのお話がありました。その後は校長先生のご案内の元、1年生から6年生まで3校時の授業の様子を委員の皆さんで見回りました。

協議会での意見交換では、「子ども達がのびのびと過ごしている様子が伝わった。」、外国語（英語）の授業では「児童がとても楽しそうだった。外国語に親しむのは早い年齢でいいのかなと思った。」、「様々な子ども達に対応するのは大変だろうが、先生が子どもの声に耳を傾けこぼすことなく対応していた。」などの感想が寄せられていました。校長先生からも「学校の意見などはまずこの協議会で話させていただいている。」とのお話があり、学力調査の結果や国語の研究授業の取組の成果、また運動会の在り方など詳しく丁寧な説明がありました。委員さんからも「自信を持って家庭や地域に説明してみては」との心強いアドバイスがありました。

